

## はじめに

オオタカは、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に基づく「国内希少野生動植物種」に指定されているほか、国や県のレッドデータブックにも掲載されている希少な鳥です。生態系の頂点にたつ猛禽類は、都市化の進行の影響を受けやすく、とりわけ平地林にも生活するオオタカは人間生活と切り離れた形で保護することは難しく、人間と共存していく方策を積極的に構築していくことが重要であります。

その実現のために、平成8年8月に環境庁自然保護局野生生物課が『猛禽類保護の進め方』を取りまとめ、猛禽類保護の現状と保護対策の基本方向を示すとともに、特にイヌワシ・クマタカ・オオタカについて、保護するうえでの必要な事項を示しました。これを受けて本県においても、実態に即したオオタカ保護対策推進のための指針の策定が急務となったところであります。

このため、平成8年度から実施しているワシタカ目鳥類生息状況調査や海外を含めた各種のオオタカ配慮方策等の検討を行い、本県における各種開発事業に対して、どのような調査を行い、どのような配慮をすることが望ましいかを具体的に示したオオタカ保護対策の手引きとして本指針を作成いたしました。ただし、個々具体的な開発計画に対しては、個別に詳細な調査をしてから判断をしなければならぬので、あくまでも目安であると考えていただくことが必要であります。

オオタカの生息できる環境を守り、また身近にそのような豊かな自然環境を持続させることは、「環境優先・生活重視」の基本理念の一つの姿であり、そのための手引きとしてこの指針が役立てば幸いです。

なお、本報告書の作成にあたっては、オオタカ保護指針検討委員会を設置し、下記の検討委員の方々に検討していただきました。心より感謝申し上げます。

### オオタカ保護指針検討委員会委員

- 座長 石原 勝敏 埼玉大学名誉教授
- 葉山 嘉一 日本大学生物資源科学部・専任講師
- 笹川 昭雄 (財)山階鳥類研究所・元所員
- 池谷 奉文 (財)埼玉県生態系保護協会会長
- 田中 正宏 埼玉県環境生活部自然保護課長

なお、本報告書のとりまとめに際しては、(財)埼玉県生態系保護協会に情報収集・整理等を委託しました。

1999年 3月  
埼玉県環境生活部長